

福島県総合計画

アニユアルレポート2025

The Fukushima Prefecture Comprehensive Plan
Annual Report 2025

資料 7

未定稿

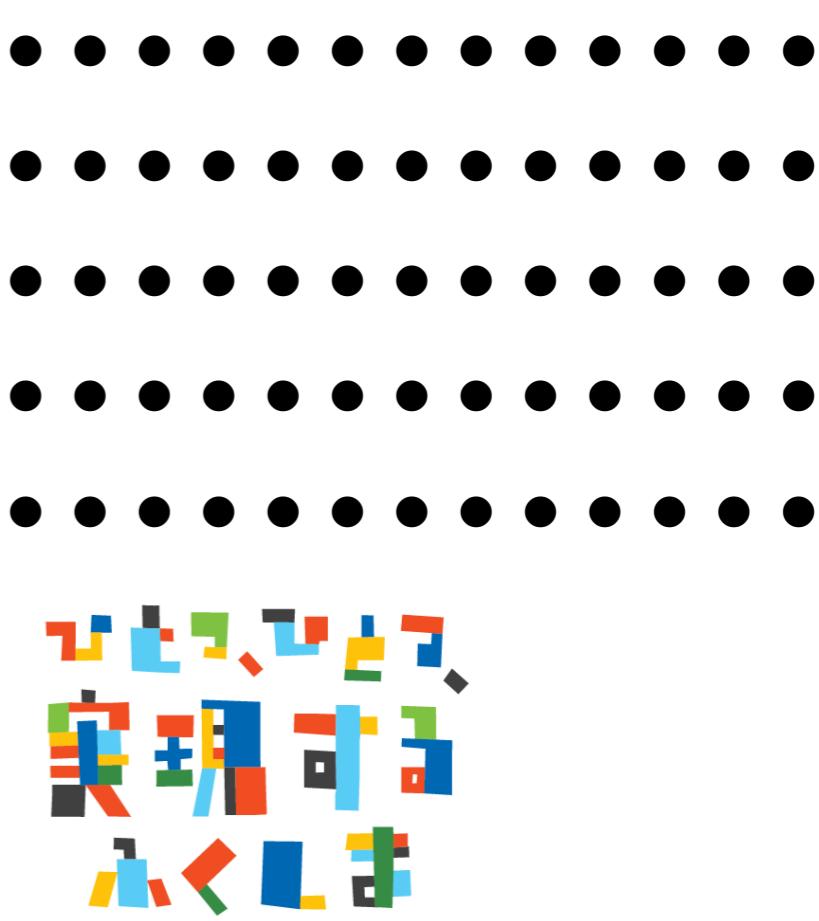
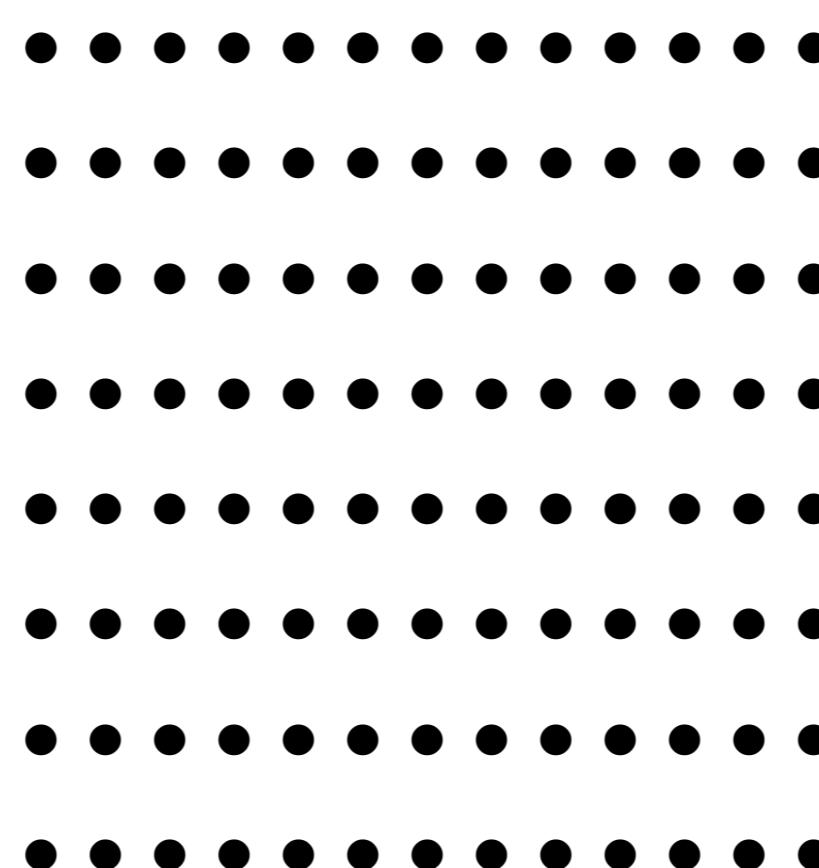
※写真はイメージです



令和7(2025)年7月15日に「ラムサール条約湿地」に登録された猪苗代湖

知事メッセージ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P3
1 ふくしまの今	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P4
(1) 復興・再生 ～トピック① ふくしまのこの一年～		
(2) 地方創生 ～トピック② ふくしまのこの一年～		
(3) 横断的な課題 ～トピック③ ふくしまのこの一年～		
2 総合計画の進捗状況	・・・・・・・・・・・・・・・	P23
(1) 総合計画の評価		
(2) 今後の主な取組		
3 ふくしまのこれから	・・・・・・・・・・・・・・・	P28
総合計画の概要	・・・・・・・・・・・・・・・	P32
(1) みんなで創り上げるふくしまの将来の姿		
(2) SDGs 視点の将来の姿		
(3) 計画の推進に向けて		
終わりに	・・・・・・・・・・・・・・	P36

(300~400字程度)



(Ⅰ) 復興・再生

2011年3月11日(金)14時46分に三陸沖で発生した**東日本大震災**はマグニチュード9.0を記録し、**国内観測史上最大級**の地震と津波の被害が発生しました。その後、**東京電力福島第一原子力発電所の事故**による原子力災害によって、周辺住民が避難を余儀なくされるなど、本県はこれまで誰も経験したことのない大きな被害を受けました。

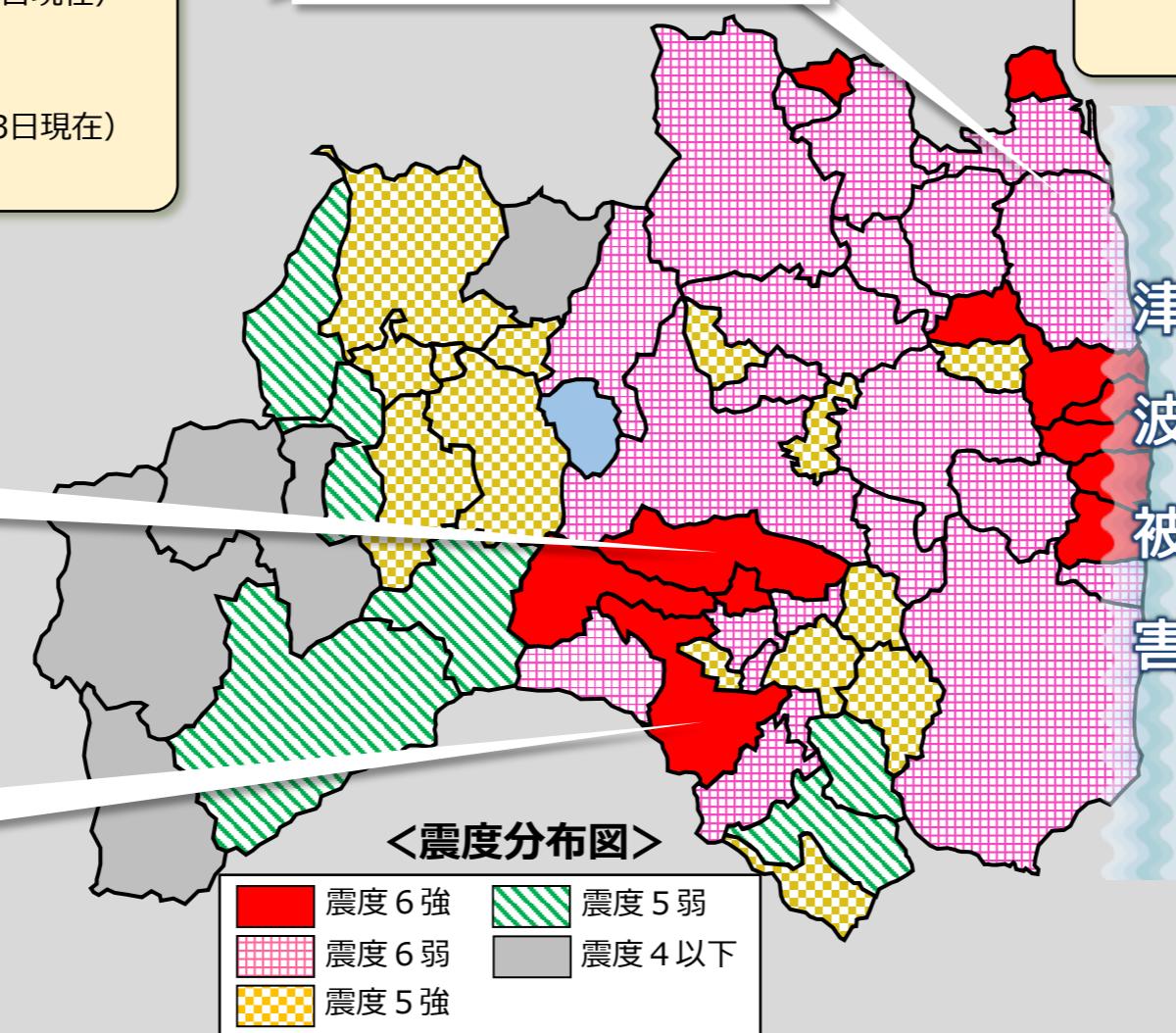
[東日本大震災の被害概要]

- ◆死者：4,180人
うち震災関連死：2,349人
(2025年8月1日現在)
- ◆家屋被害：全半壊100,477棟
(2025年8月1日現在)
- ◆公共施設被害：約6,294億円
(2012年3月23日現在)



[原子力災害の被害概要]

- ◆避難指示等区域：約1,600km² (県土の約12%)
(2011年4月22日時点)
- ◆避難者数：164,865人
(県内避難102,827人、
県外避難 62,038人)
(2012年5月時点)



東日本大震災と原発事故から15年が経過しましたが、県民の皆さんの懸命な努力と、国内外からの温かいご支援によって、**復興は着実に前進**しています。

一方で、いまだ約2万4千人の（2025年11月現在）の県民が避難生活を続けられており、避難者等の生活再建などの**本県特有の課題**が山積しています。

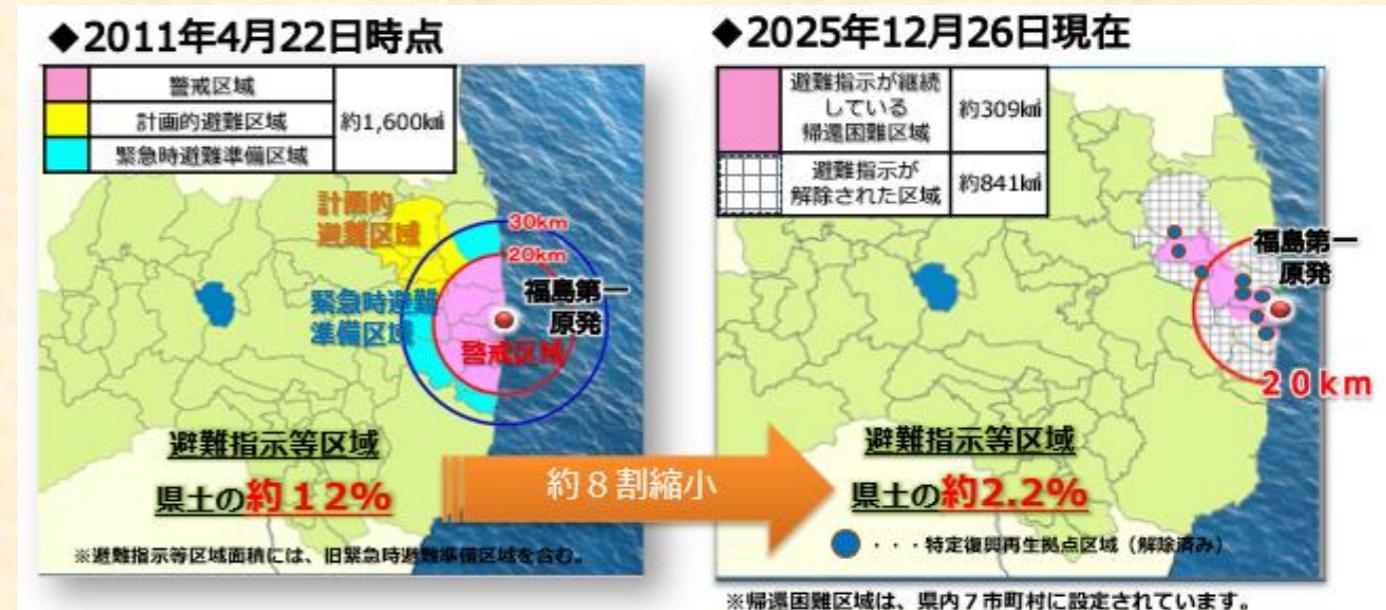
①避難地域と避難者数の推移

► 県土に占める避難指示等区域の面積は、2025年12月現在で**約12%から2.2%に縮小**しました。

※避難指示が継続している帰還困難区域は、南相馬市、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村の7市町村の一部に設定されています。

► 避難者数は2012年5月の約16万人をピークに減少しているものの、**いまだ約2万4千人**が県内外で避難生活を余儀なくされています（2025年11月現在）。

► 2026年からの第3期復興・創生期間は、**帰還意向のある全ての住民が早期に帰還できるよう**、除染や生活環境の整備等に引き続き取り組んでいきます。



②避難者等の生活再建

► 避難指示等が解除された地域では、**営業を再開した商店や、新たな商業施設・交流施設等の整備**が進んでいます。



③復興を支えるインフラ等の環境整備

- ▶ 東日本大震災に係る県管理施設の災害復旧工事は、着工した工事の99%が完了しました。
- ▶ 2025年8月に「小名浜道路」が開通し、物流や観光ネットワークの強化が進んでいます。



④新産業の創出・地域産業の再生

- ▶ 復興理念（原子力に依存しない安全・安心で持続的に発展可能な社会づくり）と再エネ推進ビジョンの下、再生可能エネルギー先駆けの地を目指し、様々な取組が進んでいます。
- ▶ 東日本大震災・原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、福島イノベーション・コースト構想では6つの重点分野の拠点整備が進んでいます。

また、本構想を更に発展させ、福島に立地している研究施設等の取組に横串を刺す司令塔となる中核的な拠点として、国が2023年4月1日に福島国際研究教育機構（F-REI、エフレイ）を設立しました。

再生可能エネルギー推進の取組



福島イノベーション・コースト構想の6つの重点分野

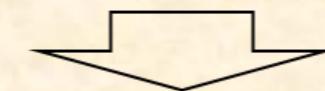


⑤東京電力福島第一原子力発電所と 第二原子力発電所の廃炉に向けた取組

- ▶廃炉に向けた取組が、県民や国民の理解の下、安全かつ着実に進められることは福島県復興の大前提です。30～40年かかるとされる廃炉に向け、国内外に正確な情報の発信を継続していく必要があります。
- ▶原発構内に保管される処理水の海洋放出の安全を確保するとともに、国内外の理解醸成が必要です。
- ▶中間貯蔵開始後30年以内の除去土壌等の県外最終処分も国の責務として進められる必要があります。
- ▶廃炉作業にはまだまだ長い時間がかかる 것을
忘れてはなりません。

廃炉までの道のり

2011年3月11日 東日本大震災・
福島第一原発事故発生



出典：東京電力
ホールディングス

水素爆発を起こした
直後の3号機

2012年4月 福島第一原発1～4号機の廃炉決定

2014年1月 福島第一原発5, 6号機の廃炉決定

2019年9月 福島第二原発1～4号機の廃炉決定
(県内原発の全基廃炉が決定)



出典：東京電力
ホールディングス
現在の3号機

今後の主な予定

2028年度内 がれき等の屋外一時保管の解消

2031年内 1～6号機の使用済燃料プールからの燃料取り
出し完了



第一原発：30～40年後（2041年～2051年頃）
に廃炉完了予定

第二原発：44年後（2065年頃）に廃炉完了予定

⑥風評払拭・風化防止対策の強化

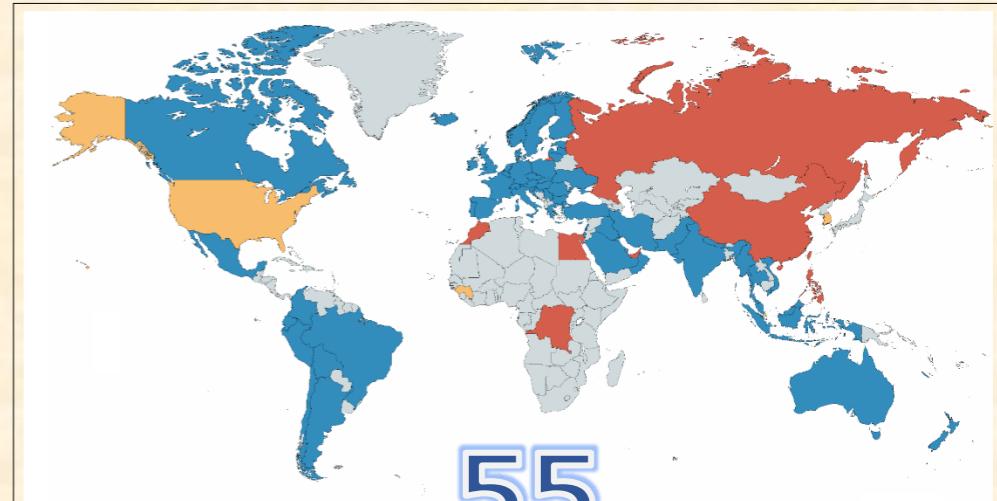
▶ 輸入規制を行っている国・地域の数は、原発事故直後の55から5まで減少しました。（2025年11月現在）

農産物の輸出状況は増加しているものの、県産品の全国平均との価格差が震災前の水準に戻らないまま固定化しています。

▶ 外国人延べ宿泊者数は震災前よりも大きく伸びていますが、全国と比較すると本県の伸び率は低い状況にあります。

▶これまでの風評・風化対策の成果は着実に現れている一方で、現在も根強い風評が残っています。震災から14年が経過し、風化の傾向が年々進行しています。

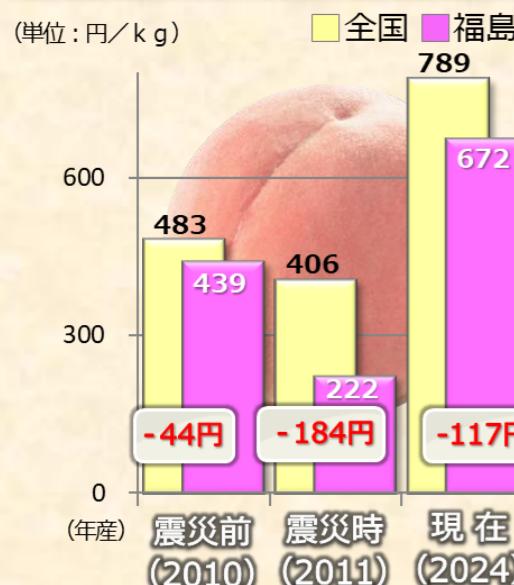
輸入規制を行っている国・地域の数



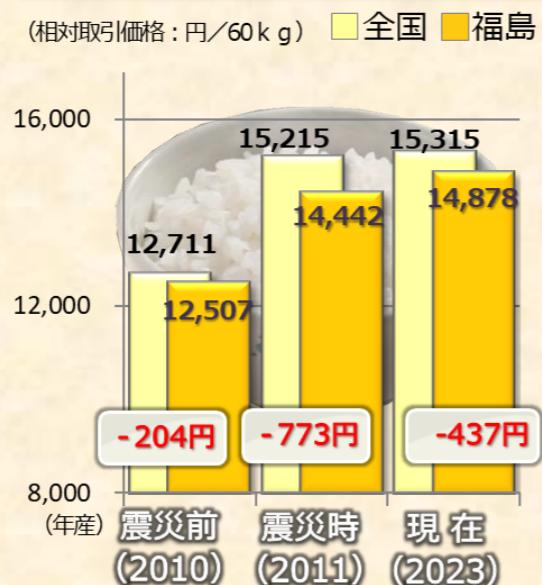
(2025年11月21日現在)

主な農産物価格の推移と全国との価格差

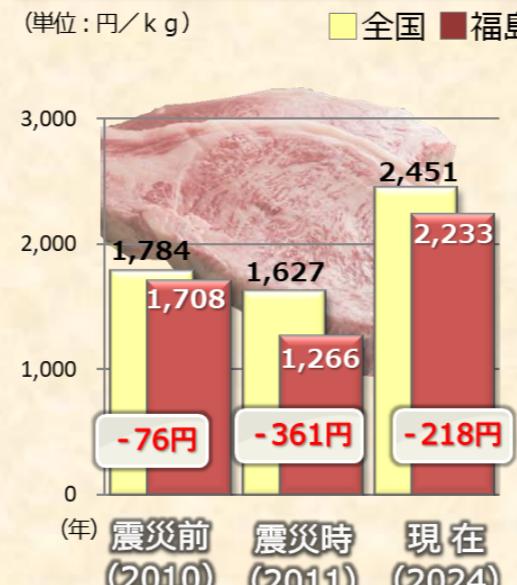
もも



米



肉用牛（和牛）



【出典】東京都中央卸売市場
「市場統計情報」

【出典】農林水産省
「米の相対取引価格」に基づく県推計

【出典】東京都中央卸売市場
「市場統計情報」

- 福島県産食品の広い品目で輸入停止している国・地域 (12→3) 中国、香港、マカオ
- 福島県産食品の一部を輸入停止している国・地域 (4→2) 韓国、ロシア
- 検査証明書の添付等により食品の輸入を認めている国・地域 (39→0)

復興・再生に向けた取組

第3期復興・創生期間の
財源確保に向けた取組

写真・図表

説明文

原発の廃炉に向けた取組

写真・図表

説明文

復興・再生に向けた取組

生活環境の整備の取組

写真・図表

説明文

生業の再生に向けた取組

写真・図表

説明文

風評払拭に向けた取組

全国新酒鑑評会で「ふくしまの酒」が日本一を獲得！



▶「ふくしまの酒」は令和6酒造年度
全国新酒鑑評会で3年ぶりに
金賞受賞数日本一を奪還しました！

県内には50を超える蔵元があり、
地域ごとに異なる味わいと香りを
楽しめるのが大きな魅力です。

実は、ふくしまには日本酒以外にも美味しいものがまだまだいっぱい！



お米



お肉



常磐もの



野菜



果物

▶風評払拭、県産品のブランド力向上、販売を促進するため、農産物を始めとする県産品、観光サービスなど、本県で生まれ、つくられ、その価値を誇るものを「ふくしまプライド。」として国内外に発信しています。



<ふくしまプライド。公式サイト>
<https://fukushima-pride.com/>



風評拭拭に向けた取組

東京2025デフリンピックのサッカー競技が復興のシンボル「Jヴィレッジ」で開催！



►2025年11月の東京2025デフリンピックのサッカー競技がJヴィレッジ（所在地：檜葉町、広野町）で開催されました。期間中、約16,000人が来場した会場では、県内の伝承施設や魅力を伝えるブースを設置するとともに、東日本大震災・原子力災害伝承館への無料シャトルバスを運行し、本県の復興の姿を発信しました。

►福島第一原発事故収束の拠点となっていたJヴィレッジは、本県復興のシンボルとして、2019年4月に全面再開され、東京五輪の聖火リレーのグランドスタートや、2024年から本県固定開催となったインターハイ男子サッカー競技の主会場として活用されています。

►近年は、ホテルや会議室など幅広い用途で利用できる施設の強みがいかされ、教育旅行や企業・団体の研修等での利用が顕著となっています。

<Jヴィレッジ 公式サイト>
<https://j-village.jp/>



(2) 地方創生

福島県の人口は、2025年10月1日現在172万人となり、1998年をピークに減少が続いています。人口が減少することによって、学校や地域コミュニティの維持が難しくなったり、医療・介護などの社会保障など、様々な分野で従来の水準維持が困難となるおそれがあるため、新たな福島県人口ビジョン及びふくしま創生総合戦略に基づきながら、官民共創による人口減少対策を進めています。

①福島県の総人口の推移

▶自然動態と社会動態は、いずれも減少傾向が続いています。

<自然動態>

2024年に過去最少の出生数8,216人及び過去最大の19,121人の自然減

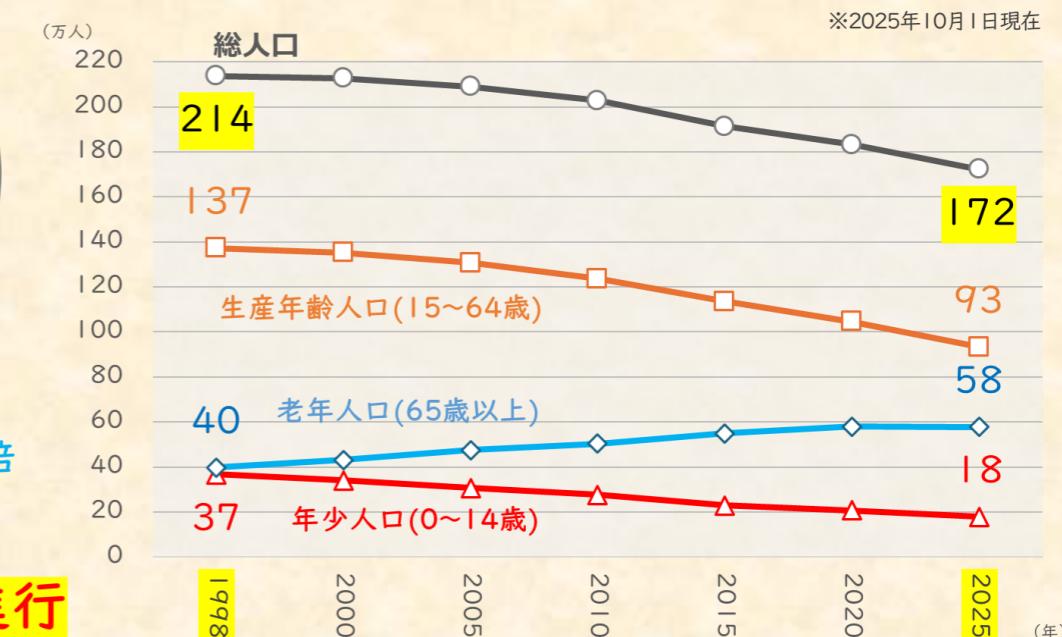
<社会動態>

2024年は6,683人の社会減

総人口
ピーク
214万人
→172万人

生産年齢は約2/3
老人人口は約1.5倍
年少人口は半減

少子高齢化の進行

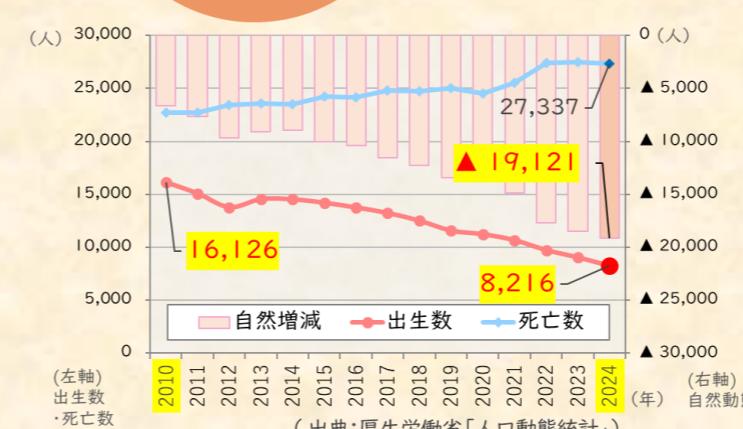


▶進学期・就職期にあたる20~24歳の若者層の転出が顕著であり、特に女性は男性の1.2倍の転出超過となっています。

▶県内若者層の男女比の不均衡は、出会いの減少、ひいては婚姻件数の減少（未婚率増加）、出生数減少にもつながり、社会動態と自然動態が相互に影響しながら人口減少が加速していることが示唆されています。

2024年
自然動態
▲19,121人
(過去最大の減少)

出生数 8,216人
(過去最少を更新)
死亡数 27,337人



2024年
社会動態
▲6,683人

転入者数 23,506人
転出者数 30,189人



20~34歳の未婚男女比の不均衡

※未婚女性の人口を1とした場合の未婚男性の比率(2020年)

順位	都道府県	1.35
2位	茨城県	1.34
3位	栃木県	1.32
4位	富山県	1.32
5位	群馬県	1.30
6位	静岡県	1.29
7位	福井県	1.28
8位	山形県	1.27
9位	山梨県	1.27
10位	長野県	1.27
-	全国	1.14
43位	東京都	1.03

(出典:総務省「国勢調査」2020年)

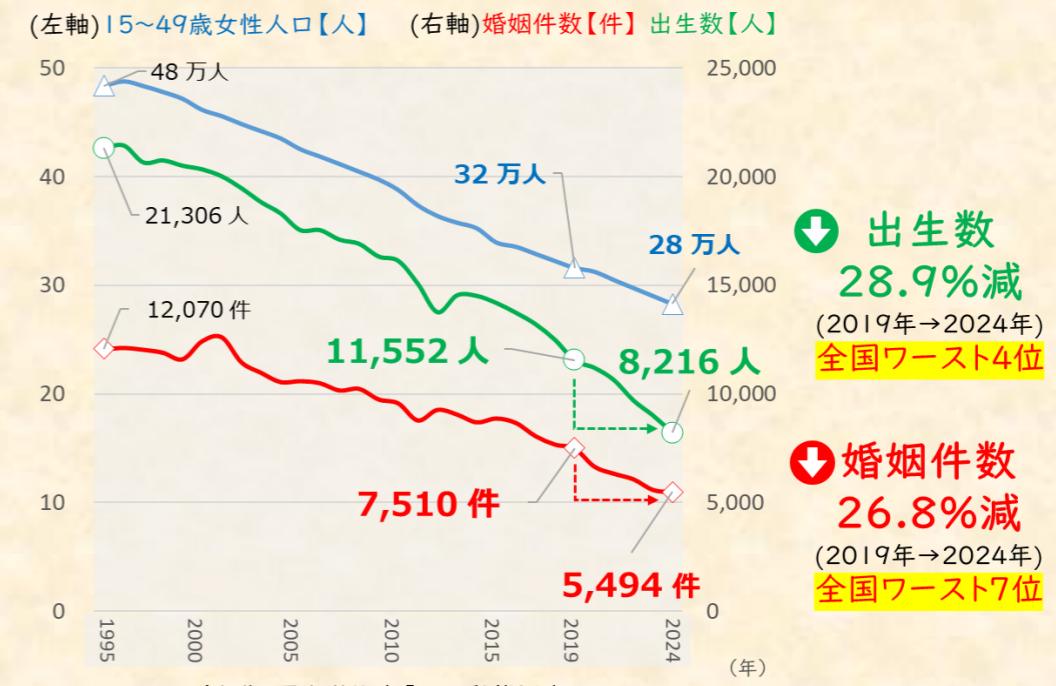
女性の転出超過数ワーストランキング

5年(2020~2024年)累計

順位	都道府県	女性の転出超過数
1位	広島県	-22,645
2位	福島県	-17,966
3位	長崎県	-16,696
4位	新潟県	-16,403
5位	北海道	-16,086
6位	静岡県	-14,684
7位	青森県	-13,992
8位	岐阜県	-13,712
9位	三重県	-12,760
10位	岩手県	-12,745
:	:	
47位	東京都	130,821

(出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」)

15~49歳女性人口・婚姻件数・出生数の推移



↓出生数
28.9%減
(2019年→2024年)
全国ワースト4位

↓婚姻件数
26.8%減
(2019年→2024年)
全国ワースト7位

②福島県人口ビジョン

▶人口の自然増対策と社会増対策を両面で進め、2040年に福島県総人口150万人程度の維持を目指します。

$$\text{合計特殊出生率} \text{ 2040年に } 1.51 \text{ を実現 } (*) + \text{社会動態} \text{ 2030年に } \pm 0 \text{ (ゼロ) を実現} = \text{福島県の人口} \text{ 2040年に } 150 \text{ 万人} \text{ 程度を維持}$$

(*) 総合計画策定時の「県民の希望出生率2.11」を改め、2040年に「合計特殊出生率が県民の希望出生率である1.51」となるよう実現を目指します。

③人口減少への適応の必要性

▶人口減少が続くなかでも、社会を機能させ、魅力ある地域となるため、官民一体で取組を進めていく必要があります。

- 人口目標が達成されたとしても、今後も人口減少は長期間にわたって続いていきます。
- 自然減対策と社会減対策を両輪として、人口減少のスピードを緩和しながら、人手不足が見込まれる教育、医療、産業など様々な分野においてAI導入等のデジタル技術の活用による業務効率化・生産性向上、地域資源を活用した高付加価値型の産業・事業の創出など、人口規模が縮小する中でも経済が成長し、社会を機能させていくための取組をあらゆる主体が連携しながら進めていく必要があります。

④県内7つの地域における地方創生

本県は、全国第3位の広大な県土や、首都圏に隣接する地理的優位性のほか、多様な気候風土、伝統文化、歴史などが息づいており、それぞれの地域特性をいかしながら、県北、県中、県南、会津、南会津、相双、いわきの7つの地域で地域づくりを推進しています。

会津地域

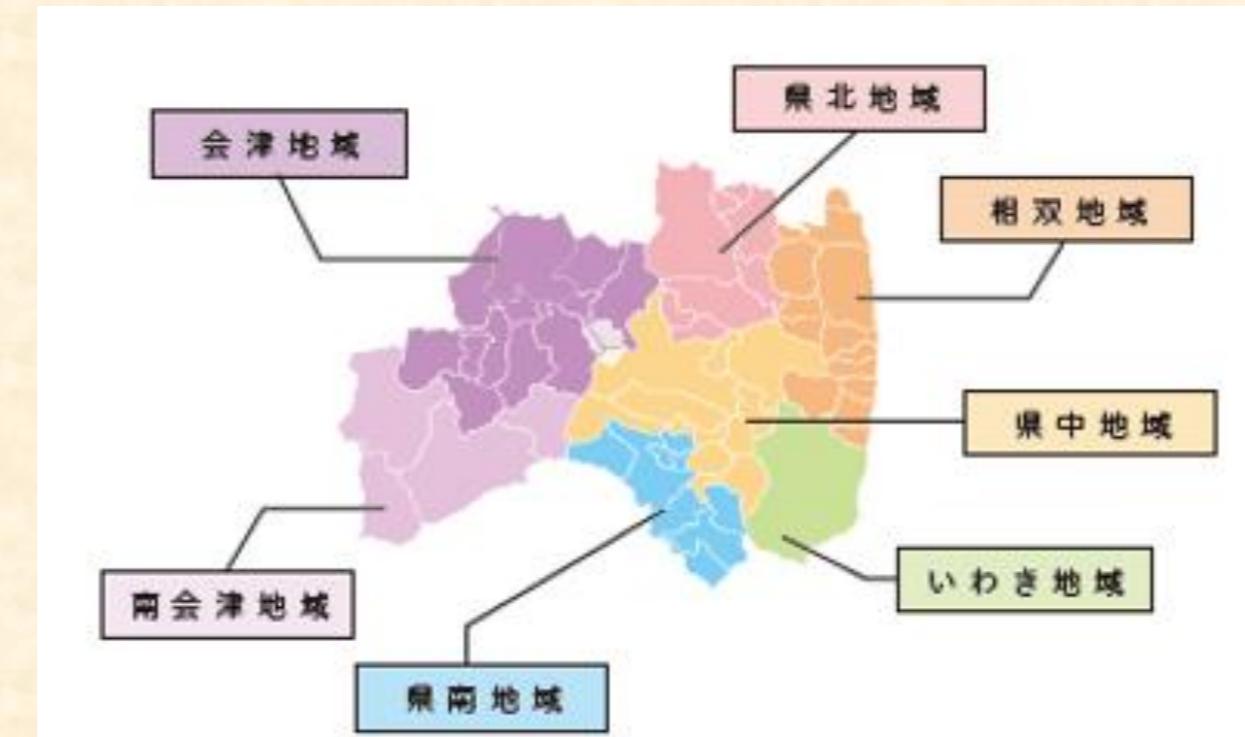


- 会津地域を支える担い手の育成・確保と魅力ある地域づくり
- 誰もが暮らしやすい会津地域の生活環境づくり
- 新たな時代を拓く会津地域ならではの産業づくり
- 後世に残すべき会津の宝を守りいかす取組

南会津地域



- 地域の特性をいかした産業の振興
- 地域資源を活用した交流・関係人口の拡大と移住・定住の促進
- 社会生活基盤の維持・整備による安全・安心な暮らしの確保
- 豊かな自然環境や伝統文化など地域の宝の保全・継承



相双地域



- 帰還促進と移住・定住の促進に向けた取組
- 持続可能な産業の再生と創出及び関連インフラの整備
- 地域の特性をいかした農林水産業と過疎・中山間地域の再生
- 時代の潮流を踏まえた生活基盤の構築

県北地域



- 誰もが安心していきいきと暮らせる環境づくり
- 多彩な交流を通した地域の活性化
- 地域経済を支える産業の振興、人材の育成・確保
- 災害に強く、持続可能な生活を支える基盤の整備

県中地域



- 災害の克服、安全で安心に暮らせる地域社会の形成
- こおりやま広域圏の広域連携による多彩な地域資源を活用した交流人口拡大、関係人口の創出、移住・定住の推進
- 新たな未来を創り、地域経済をけん引する産業の創出・集積、高度産業人材等の育成・確保
- 地域に対する誇りと愛着を育む魅力あふれる地域づくりと生活基盤の充実、担い手の育成
- 経済・社会・環境のバランスが取れた持続可能な発展を成し遂げる地域社会の形成

県南地域



- 地域の経済をけん引する活力ある産業の振興
- 地域づくりを支える担い手の育成や多様な人々を受け入れるための場づくり
- 地域の魅力をいかした交流の促進と広域連携による交流人口の拡大
- 人々が安全・安心に暮らし続けることができるまちづくり

いわき地域



- 技術と人材をいかした産業の振興
- 多様な地域資源を活用した地域間連携による関係・交流人口の拡大
- 持続可能な地域づくりに向けた幅広い世代と多様な人材、団体、企業等の活躍の場の創出
- 震災と復興の経験をいかした安全で安心に暮らせる生活基盤の充実

若者による人口減少対策

ふくしま共創チームの活動が始まりました

▶2025年7月16日、県では、人口減少への危機感を共有し、オール福島で「連携・共創」し人口減少対策に取り組むため、あらゆる主体の連携基盤として「ふくしま共創チーム」を設立しました。

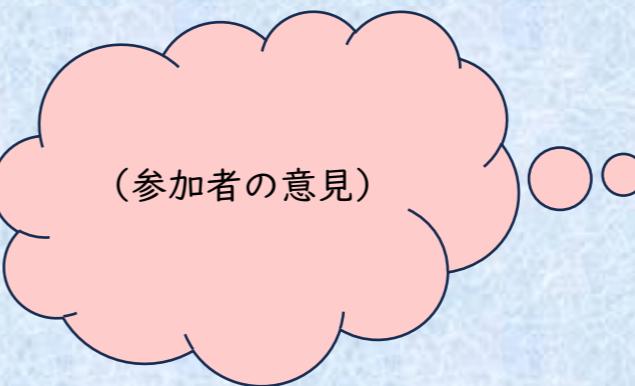
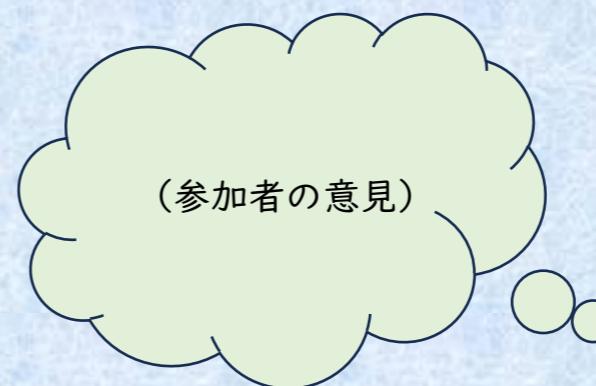
▶9月から県内3地域(浜通り・中通り・会津)で、学生や企業・団体、市町村で構成する「ワーキングチーム」の活動を実施。

企業訪問やワークショップを通じて、「若者の視点」を大切にしながら本県の人口減少対策に必要なことを議論しました。

▶2026年2月には、ワーキングチームの活動報告会を開催し、活動の成果を知事に報告しました。

▶県では、チームの意見を積極的に事業に取り入れています。今後もチームの輪を広げ、ふくしまの未来と一緒に考え、共に創っていきます。

2026年2月の
活動報告会
の写真



『感動！ふくしま』プロジェクト

県内企業の魅力や福島で働く魅力を若者に発信し、県内就職を促進するため、様々な取組を進めています

ふくしま企業情報
の発信



未来の産業人材確保
のための
体験プログラム

ものづくり産業人材
の確保

若者還流・県内定着
の促進

地域の強みを生かした取組

7地方振興局が各地域の課題を踏まえ、その地域ならではの強みを生かし、市町村や地域の企業等と連携・共創しながら人口減少対策に取り組みました。



(3) 横断的な課題

物価高騰や自然災害、デジタル変革など、様々な分野にまたがり、多様な主体が連携しながら対応していく必要がある新たな課題が次々と発生しています。

①物価高騰

▶県民が安心して豊かな生活を送ることができるよう、生活者や事業者の支援を進めていく必要があります。

<近年の主な状況>

●エネルギー価格の高騰

- ・2022年2月のロシアのウクライナへの軍事侵攻の影響等によって、電気、ガス、ガソリン等が値上げ

●畜産配合飼料価格、酪農飼料価格、自給飼料価格の高騰

●食品価格の高騰

- ・原材料価格の高騰等による食品価格の高騰

写真・図表

グラフ

②頻発化・激甚化する自然災害への対応

- ▶人命の保護が最大限図られ、被害が最小化するよう取り組む必要があります。

<近年の主な災害>

発生日	内容
2022年3月	福島県沖地震（震度6強）
2023年9月	県内で初めて「線状降水帯」が観測され、浜通りを中心に非常に激しい豪雨（わずか1日で9月の平均雨量に匹敵する大雨）
2025年2月	会津地方を中心とした豪雪
2025年 夏	記録的な猛暑
2025年 秋	クマ出没が相次ぎ、過去最多の目撃件数と人的被害の発生



③地球温暖化対策

- ▶省エネの徹底や、再エネの利用促進、さらには、熱中症対策などの適応策の一層の推進が必要です。

- 近年、豪雨や猛暑などが頻発化し、健康や、経済・産業活動などの様々な場面で、気候変動による大きな影響を受けています。
- そのため、2023年6月に知事を代表とする「ふくしまカーボンニュートラル実現会議」を設立し、オール福島での取組を推進しています。
- 2024年10月には、取組を更に加速化させるため、「福島県二〇五〇年カーボンニュートラルの実現に向けた気候変動対策の推進に関する条例」を制定し、様々な取組を進めています。



④デジタル変革 (DX) の推進

▶人口減少に伴う人手不足等のひとつの対策として、行政のDXと地域のDXに取り組んでいく必要があります。

●行政手続きのオンライン化の遅れへの対応、生成AIの急速な進化と普及促進等に向けて、福島県DX推進戦略（令和7年度末策定予定）のもと、総合的・戦略的にDXを推進していきます。

写真・図表
など

写真・図表
など

⑤新興感染症等への 対応

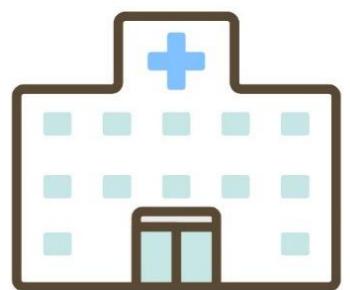
▶新興感染症等の発生による県民生活や社会経済に影響を最小化するよう準備を進めておく必要があります。

●2019年12月末から世界中に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は、本県においても長期間にわたり県民の生命と健康を脅かし、生活や社会経済に大きな影響を及ぼしました。

●2023年5月に5類感染症に移行したものの、感染症の危機が終了したわけではありません。このため、新興感染症等の発生に備えて、平時から次なる感染症危機に備えておくことが大切です。

<医療機関と県の協定締結状況>

- ◇入院の確保病床数 850床 (R7.10.1現在)
- ◇発熱外来の確保機関数 680機関 (R7.10.1現在)



クマ被害防止対策

2025年度は全国的にクマの目撃が相次ぎ、クマによる人身被害の多発、屋外活動の制限など、日常生活に大きな影響を与えました。

クマの目撃件数・人身被害件数（2025年1月31日現在）

▶目撃件数 1,996件
(過去数年間の推移も掲載予定)

▶人身被害 21件24人（前年比14件17人増）
(過去数年間の推移も掲載予定)

ツキノワグマ被害防止対策

- ▶目撃地点等におけるパトロールの強化
- ▶県管理河川の刈り払いや、柿の木などの誘引木の伐採
- ▶観光地での注意喚起看板の設置
- ▶農業生産現場における農作物の被害防止や捕獲の強化 等

今年の秋はクマに注意!

ツキノワグマ出没警報 発令中(会津・中通り)

今年はクマの目撃件数が過去最多となっていますが、さらにこの秋はブナ等の堅果類が不作であり、冬眠前のクマが餌を求めて人里近くまで出没する可能性が高いことから会津、中通り地域に「ツキノワグマ出没警報」を発令しました。

登山やキノコ採り、山や河川敷での作業などクマとの遭遇リスクが高まる時期のため、クマが出没している地域では複数人で行動する、必ずクマ鈴を携帯するなどクマに出会わないよう十分注意してください。

区域・期間 会津・中通り地域「ツキノワグマ出没警報」 令和7年9月11日～令和7年12月15日
※浜通り地域においても9月11日～12月15日まで「ツキノワグマ出没注意報」を発令中です。

ここが危険!

クマとの遭遇多発ポイント

林縁部や藪付近 納屋・畜舎 果樹周辺 農作業・草刈り 朝夕の散歩

登山や仕事での入山 キノコ採り 河川敷

クマに出会わないためにできること

- 1 目撃情報を調べましょう
クマがどこにいるのか知ることが大切です。
県警のポリスメールや自然保護課の目撃マップを活用しましょう。
- 2 クマ鈴やラジオなど音のするものを身につけて行動しましょう
クマの生息している場所では、クマ鈴、ラジオなど音のするものを身につけ、
クマに自分の存在を知らせましょう。藪や河川敷に入る際は、事前に花火を打つ
など追い払いを行いましょう。
- 3 朝夕の登山や散歩、農作業を行う際は、複数人での行動、クマ鈴等の携帯を徹底しましょう
朝夕はクマが最も活発に行動する時間帯です。朝夕の入山や農作業には十分注意しましょう。
- 4 屋外に生ゴミ・野菜・未収穫の果物・ペットフードを置かないようにしましょう
クマは餌に対する執着が非常に強いです。一度人間の食べ物や生ゴミの味を覚えてしまうと、
頻繁に人里へ出没してしまうため、クマの食べ物になるものを置かないようにしましょう。
また、畜舎や小屋に侵入し、餌を食べることもあるため、侵入されないよう対策しましょう。

クマの目撃マップは
こちら↓

福島県ホームページ

問い合わせ先 福島県自然保護課 024（521）7210

2 総合計画の進捗状況

(1) 総合計画の評価 《県民の取組の成果》

ひと分野

基本指標の達成状況

2023年度
22/632024年度
18/63

ふくしまに魅力を感じる人が増えて、
移住者数は過去最多を更新。

一方、健康指標などは悪化傾向。

ひと分野の目標達成には、県民皆さんの協力が
大切であり、情報発信に力をいれていきます。



ふくしま応援！
『ベコ太郎』

	代表的な指標	目標値	最新値	
政策1 全国に誇れる健康長寿県へ 若い世代から高齢者までライフステージに 応じた疾病予防など4施策	歯の健康 (12歳でむし歯のない者の割合) がん検診受診率 (胃がん) ※他に、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がんの指標もあります	65.0% 60.0%	66.9% 32.7% [※]	毎日歯みがきがんばろう 早期発見が大事。 健診は必ず受けましょう
政策2 結婚・出産・子育ての希望を かなえる環境づくり 出会い・結婚、妊娠・出産の希望をかなえる 支援の充実など3施策	男性の育児休業の取得率 (民間 (事業所規模30人以上)) 福島県で子育てを行いたいと回答した県 民の割合	17.0% 72.6%	43.5% 58.4%	イクメンが増えてます 子育てをみんなで支えていこう
政策3 「福島ならでは」の教育の充実 「学びの変革」の推進と資質・能力の育成 など6施策	地元自治体等と共に課題解決に向けた学習 活動を実施した学校の割合 (高等学校) ふくしま学力調査の結果の経年比較により、 学力が伸びた児童生徒の割合 (中学校・国語)	80% 100%	100% 61.3%	地域のためにありがとう 知ることや考える力が 高まると可能性も広がるよ
政策4 誰もがいきいきと暮らせる県づくり 多様な人材が共に生きる社会の形成 など4施策	民営事業所の管理職における女性の割合 (係長相当職以上の女性比率) 「多様性を理解した社会づくりが進んで いる」と回答した県民の割合	23.5% 42.4%	20.3% 28.3%	働きやすい環境が大切です みんなが暮らしやすい ふくしまがいいね
政策5 福島への新しい人の流れづくり ふくしまとのつながりの強化、関係人口の拡大 など2施策	移住者数 人口の社会増減	3,214人 △4,184人	3,799人 △6,849人	ふくしまが注目されています ふくしまのいいところも 知ってほしい…

※最新値は2023年度の数値

2 総合計画の進捗状況

暮らし分野

基本指標の達成状況

2023年度
30/602024年度
30/62

	代表的な指標	目標値	最新値
政策1 東日本大震災・原子力災害からの復興・再生 複合災害からの復興の加速化、避難地域の復興・再生 など8施策			
政策2 災害に強く治安が確保されている安全・安心な県づくり 災害に強い県土の形成 など7施策			
政策3 安心の医療、介護・福祉提供体制の整備 質が高く切れ目のない医療提供体制の構築 など5施策			
政策4 環境と調和・共生する県づくり 豊かな自然や美しい景観の保護・保全 など4施策			
政策5 過疎・中山間地域の持続可能な発展 過疎・中山間地域のひとの確保と地域力の育成 など3施策			
政策6 ふれあいと親しみのある魅力あふれる県づくり にぎわいと魅力あるまちづくりの推進 など5施策			

2 総合計画の進捗状況

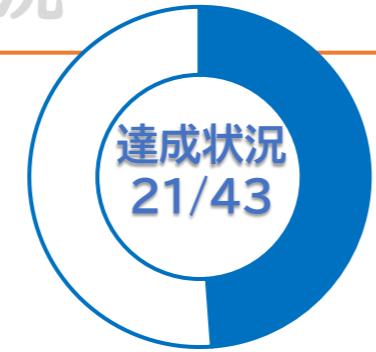
未定稿

しごと分野

基本指標の達成状況

2023年度
26/43

2024年度
21/43



代表的な指標 目標値 最新値

政策1 地域産業の持続的発展

地域の企業が主役となる、しなやかで力強い
地域産業の育成・支援 など3施策

政策2 福島イノベーション・コスト 構想の推進

福島イノベーション・コスト構想を基軸
とした産業集積・新興 など4施策

政策3 もうかる農林水産業の実現

農林水産業の多様な担い手の確保・育成
など5施策

政策4 再生可能エネルギー先駆けの地の 実現

再生可能エネルギー等の更なる導入拡大と
利用促進 など3施策

政策5 魅力を最大限いかした観光・交流 の促進

ふくしまの地域資源の磨き上げ及び魅力発信
による誘客の拡大 など4施策

政策6 福島の産業を支える人材の 確保・育成

県内経済を支える人材の確保・育成
など3施策

政策7 地域を結ぶ社会基盤の整備促進

基盤となる道路ネットワークの整備
など3施策



(2) 今後の主な取組

総合計画審議会や地域懇談会における意見

- ひと分野
- 県民の日常生活における健康づくり推進による生活習慣病対策の強化
 - 結婚・出産・子育て希望をかなえる環境づくりと適切な情報提供
 - 幼少期からはじめる、福島に愛着・誇りを持つことができるキャリア教育や地域課題探究活動の充実
 - 国籍等にかかわらず、あらゆる立場の県民が県政に関する情報を受け取りやすくするための環境づくり
 - 県外転出の要因分析に基づく、若者や女性の定着・還流の促進 など

- 暮らし分野
- 避難地域における帰還者と移住者の交流促進に向けた支援
 - 災害復旧・復興業務におけるICT等の積極的な活用の推進
 - 医療、介護・福祉分野の人材養成と定着への支援
 - 有害鳥獣の捕獲体制の強化と捕獲人材の育成・確保
 - 過疎・中山間地域における生活交通の利便性向上
 - 生涯学習やスポーツ活動の機会充実と、その魅力を伝えるための情報発信 など

- しごと分野
- 県内企業の魅力・情報発信の強化
 - 企業への伴走支援の強化やサプライチェーンの構築支援、地域と連携した人材育成等による福島イノベーション・コースト構想の着実な推進
 - 農林水産業の魅力・情報発信等による多様な担い手の確保
 - 地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入拡大と地産地消の推進
 - 特色ある地域資源を活用した観光コンテンツづくりと情報発信の強化
 - 若者や女性に選ばれる魅力的な働く場の確保
 - 福島空港の2次アクセス対策による利活用促進

今後の主な取組

●●事業
【概要】

ひと分野

【ねらい】

写真

●●事業
【概要】

写真

【ねらい】

●●事業
【概要】

暮らし分野

【ねらい】

写真

●●事業
【概要】

写真

【ねらい】

●●事業
【概要】

しごと分野

【ねらい】

写真

●●事業
【概要】

写真

【ねらい】

3 ふくしまのこれから

「県政150周年記念事業」の開催

<県政150周年記念事業 特設サイト>
<https://fukushima150th.jp/>



1876年（明治9年）年8月21日に、旧福島県、磐前（いわさき）県、若松県が合併し、ほぼ現在の福島県の形が誕生してから、2026年に県政150周年の節目を迎えます。

そこで、2026年は県政150周年を記念し、関係団体等と連携しながら、記念事業を県内各地で展開し、これまでの本県の歩みを振り返りながら、県民の皆さんと一緒に福島の「魅力」を広く発信していきます。

＜主催事業～主な特別企画～＞

県政150周年の冠事業として、大ゴッホ展の開催やふくしまDC事業などを展開。その他、150周年賞の創設、節目コラボ事業、150周年プレゼントや商品制作、情報発信やパネル展示等の各種取組を行っていきます。

● 「福島県政150周年・東日本大震災15年大ゴッホ展 夜のカフェテラス」開催

・会期

2026年2月21日（土）
 ～5月10日（日）

・会場

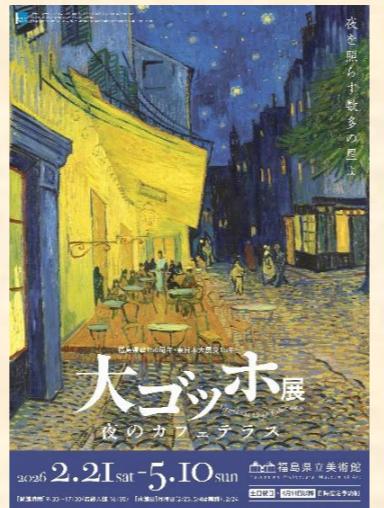
福島県立美術館
 （福島市森合字西養山1番地）

・展示作品

74点予定
 （うちファン・ゴッホ作品57点）

・公式HP

<https://www.minfo.jp/vangogh/>



＜連携事業～官民ネットワーク～＞

県政150周年を広く発信していくため、記念事業の基本理念に共感し、協力いただける市町村、民間企業、各種団体等の皆さんと一緒に官民一体となって事業を展開していきます。

※官民ネットワーク参加状況：252団体
 (2026.1.31現在)



先人たちが、郷土の発展のために、様々な困難を乗り越え、積み重ねてきた150年の歴史を振り返り、それらを礎とした新たな時代の福島県の創造に挑戦していきます。

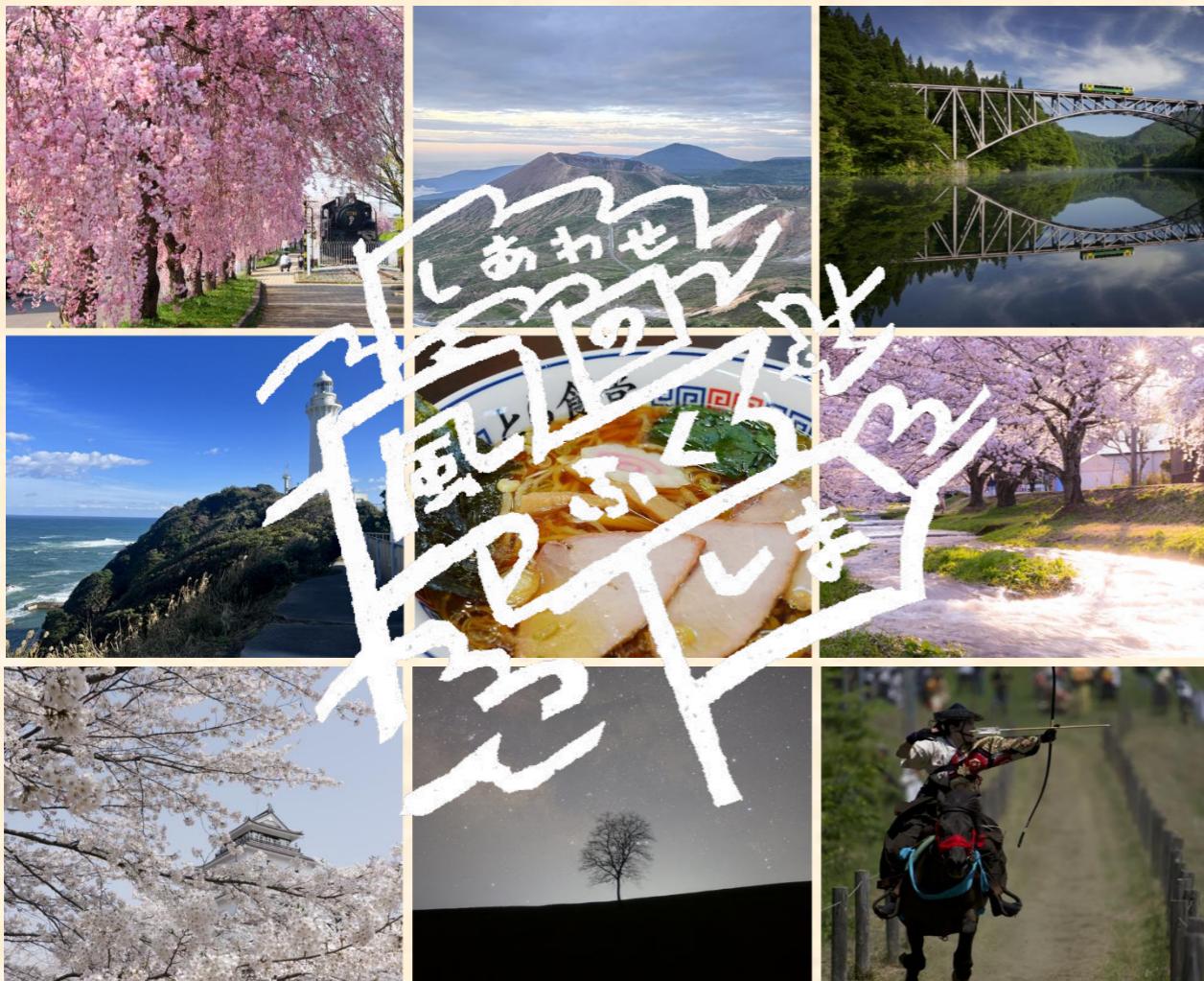
「ふくしまデスティネーションキャンペーン」の開催

<ふくしまDC 特設サイト>

<https://www.fukushima-dc-cp.jp/>



2026年4月～6月にJRグループと県・市町村・地元の観光事業者などが一体となって、各地域の魅力を発信する**大型観光キャンペーン**を開催します。
期間中は**様々な特別企画**をご用意し、福島全体で観光客の皆様をおもてなしいたします！



<主な特別企画>

官民300超の特別企画でしあわせの風を感じていただきます

●県企画特別列車

県民も観光客も笑って、学んで、感動できる特別な臨時列車を運行。

4月 「よしもと芸人おもてなしSATONO」号

5月 「ふくしま復興ホープな旅」号

6月 「只見線 霧幻SATONO」号

●「大ゴッホ展 夜のカフェテラス」ナイトミュージアムツアー

DC期間中の4/4、4/24の2日間限定、限られた人数でゆったりと鑑賞できる特別なナイトミュージアムツアーを開催(首都圏発着、県内発着など複数ツアーを準備)

○その他期間中の県内大型イベント

2/21～5/10 大ゴッホ展 夜のカフェテラス

4/11～6/14 ポケモン天文台

6/6～7 ふくしまの酒/味噌/醤油まつり

「しあわせの風 ふくしま」

たくさんの旗が心地良い風に力強くたなびいて、ふくしまを訪れるみなさまをお迎えします。

来訪を心待ちにしていた歓迎の旗。誇りに満ちた宝の在処を示す旗。復興に向かう船が掲げる大漁旗。

そして、笑顔で振り返してくださる旅人の旗。

ふくしまの旅で出会い、感じ合う、しあわせの風。

ひとりひとりにふくその風を、あたたかく多彩な旗をモチーフに、流れる雲と鳥のさえずりとともに表現しています。



福島イノベーション・コースト構想の推進

<福島イノベーション・コースト構想推進機構 公式サイト>
<https://www.fipo.or.jp/>



東日本大震災・原子力災害により失われた浜通り地域等の産業を回復するため、**国家プロジェクト**である「福島イノベーション・コースト構想」を進めています。また、本構想を更に発展させる拠点として、2023年4月に福島国際研究教育機構（F-REI、エフレイ）が設立され、新産業集積を担う人材を育成し、経済効果を県全体に波及させ、世界に誇れる福島の復興・再生の実現を目指しています。



(復興庁提供資料：第4回新産業創出等研究開発業議会【資料4】を加工
 日建設計・日本設計・パシフィックコンサルタンツ設計共同体提供
 ※設備イメージであり今後の設計で変更となる可能性がある)

写真・記事

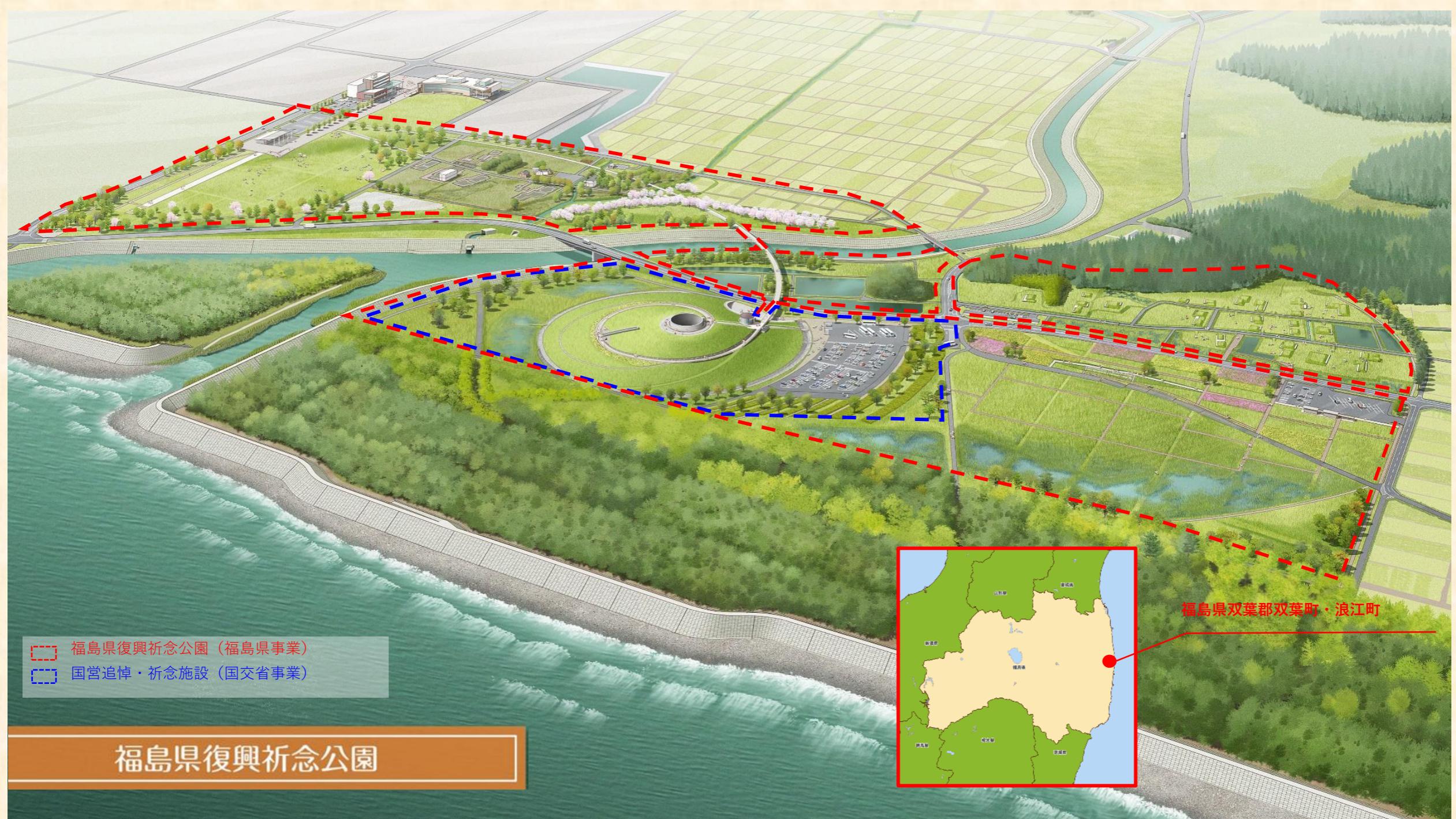
※「人機一体」等の強いインパクトのあるものや、県民にどのような影響があるかが伝わるものなどを記載予定

写真・記事

※夢を感じさせる研究や、県民にどのような影響があるかが伝わるものなどを記載予定

福島県復興祈念公園の開園

東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂をはじめ、震災の記憶と教訓を後世へ伝承するとともに、国内外に向けた復興に対する強い意志を発信すること等を目的とし、双葉郡双葉町、浪江町の両町にまたがるエリアに国と連携して整備してきた福島復興祈念公園が2026年4月25日に開園します。



総合計画の概要

(1) みんなで創り上げるふくしまの将来の姿

- 総合計画は2022年度～2030年度までの県づくりの指針や施策を示す県政の羅針盤です。
- ふくしまの30年先の未来について、県民の皆さんや福島に思いを寄せる方それが思い描き、10年程度先のふくしまの将来の姿（未来予想図）をオールふくしまで創り上げます。
- 未曾有の複合災害※からの復興、急激な人口減少への対応という前例のない課題を克服しようとする本県の取組は、SDGsが目指す「誰一人取り残さない多様性と包摂性のある持続可能な社会の実現」と方向性が一致しています。

※複合災害＝地震・津波・原子力災害、さらには風評被害といった色々な災害が重なり合った災害。

福島県を取り巻く現状と課題

- ①復興・再生の現状と課題
- ②地方創生の現状と課題
- ③横断的に対応すべき課題
(自然災害、新型コロナウイルス感染症、地球温暖化対策 など)

基本目標

やさしさ、すこやかさ、おいしさあふれる
ふくしまを共に創り、つなぐ

県民の皆さんとの意見

本計画の策定に当たっては、多くの県民の方々に参加していただき、問題意識の共有を図りました。福島県総合計画審議会での議論、市町村との意見交換、県内各地で開催したワークショップや地域懇談会等を通じ、県民の皆さんから「ふくしまの将来の姿」についてたくさんの意見を頂きました。

- ①総合計画審議会
- ②地域懇談会
- ③市町村との意見交換
- ④対話型ワークショップ(小中学生・高校生・大学生)
- ⑤アンケート など

【目標に向かうために掲らいではならない前提】

この基本目標の達成に向けた様々な取組を進める上で、原子力災害による長期にわたる廃炉作業や環境回復の取組、避難指示の解除や解除後の生活・生業の再生、生活インフラの再生、産業の再生、さらには風評の問題や関心の低下による風化の問題などが着実に解決されていくことが大前提です。この前提がひとつも揺らぐと、本計画が描く将来の姿が根底から崩れる可能性があることから、引き続き、国、東京電力の責任ある対応を求めつつ、国・県・市町村が一体となって復興を進め、かけがえのないふるさとを取り戻す必要があります。

県づくりの理念

- 多様性に寛容で差別のない共に助け合う地域社会（県）づくり
(寛容、認め合い、つながり) : やさしさ
- 変化や危機にしなやかで強靭な地域社会（県）づくり
(回復力、強靭さ、健全さ) : すこやかさ
- 魅力を見いだし育み伸ばす地域社会（県）づくり
(美しさ、あたたかさ、魅力・強み) : おいしさ



総合計画に描いた「将来の姿」の イメージイラストのコンセプト

県土から伸びる木の幹から分かれる枝葉
(=ひと、暮らし、しごと) がそれぞれ大きく育ち、
重なり合う部分 (=調和) が色濃く育っています。
木は県土に深く根を張り (=深化)、
幹と枝葉を大きくし (=進化)、
日々新たな枝葉が芽生えています (=新化)。

「ひと」「暮らし」「しごと」の達成状況を
279個の指標によって毎年度把握・分析し、
次年度の改善に活かしています。

県民の皆さんから頂いた「ふくしまの将来の姿」についての意見を
県づくりの理念に沿って見ると、大きく次の3つに集約できます。

「誰もが活躍できる」
「ひとりぼっちにしない」
「人とのつながり・支え合い」
などの

“ひとを大切にする”

= ひと

「医療・福祉が充実」
「災害や犯罪が少ない」
「子どもが育てやすい」
「自然豊か」などの

“安心・快適に暮らせる”

= むらし

「産業や観光が盛んである」
「雇用の受け皿がある」
「一次産業の活性化」
などの

“働きたい場所(仕事)がある”

= しごと

この「ひと」「暮らし」「しごと」の3つの側面は、相互に関連性があり、相乗効果がある場合もあれば、
相反する関係にある場合もあります。

大事なのはバランス(調和)を取りながらこの3つを伸ばしていくことです。

これらを総じて、「みんなで創り上げるふくしまの将来の姿」を、次のとおり定めました。

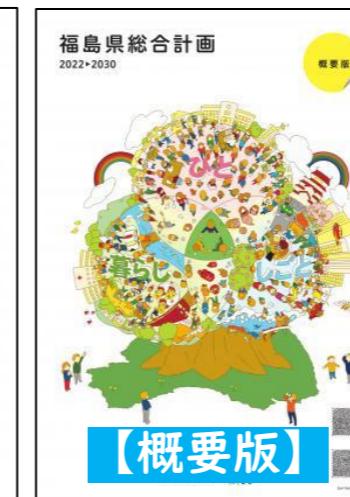
ひと むらし しごと が

“調和しながらシンカ(深化、進化、新化)する豊かな社会”

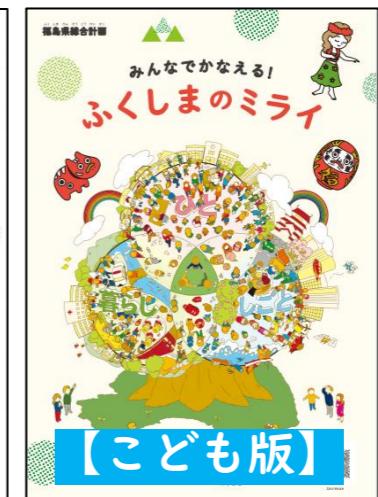
詳しい取組などは総合計画でご確認ください！



【本編】



【概要版】



【こども版】

二次元コード



(2) SDGs視点の将来の姿

▶ SDGs視点の将来の姿



他の地域よりも複雑な課題を抱える福島県がどのような姿を目指すのか、福島に心を寄せる人々との連携・協働を深めながら、普遍的な課題に照らして県づくりの方向性を示すため、SDGsの17の目標ごとの視点で描きます。



人や国の不平等をなくそう

- 年齢、性別、国籍、文化など様々な背景を持つ人々が互いに尊重し、自分らしく暮らしている

ひと



貧困をなくそう

- 誰もが、医療、教育などの基礎的なサービスを享受できる環境が整っている



陸の豊かさも守ろう

- 豊かな自然環境が保全されている
- 希少な動植物の保護など生物多様性が保全されている



平和と公正をすべての人に

- 安全・安心で、差別や虐待のない人権に配慮した社会づくりが進んでいる



質の高い教育をみんなに

- 知識や技能のみならず、自ら考え課題解決できる子どもたちが育っている
- 震災の記憶の継承や復興への取組を基に、郷土への理解が進んでいる
- 生涯にわたって学び続けることができる環境が整っている



住み続けられるまちづくりを

- 各種都市機能の中心市街地への集積など歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりが進んでいる
- 本県の魅力の発信や受入体制の整備により、本県への移住・定住の流れが確かなものとなっている
- 避難解除等区域における生活環境等の整備や居住人口の増加が進んでいる
- 過疎・中山間地域においても、医療や生活交通などの生活基盤が安定的に確保されている



- 安全・安心で、差別や虐待のない人権に配慮した社会づくりが進んでいる



ジェンダー平等を実現しよう

- 地域や企業等が一体となり、多様な子育てを支援する体制が構築されている
- あらゆる分野で女性の意思決定過程への参画が進み、女性活躍の場が広がっている



すべての人に健康と福祉を

- 若い世代から高齢者まで県民一人一人が心身ともに健康な生活を送っている
- 安心して妊娠・出産に臨むことができる環境が整備されている
- 安心して必要な医療を受けられる体制が充実し、医療の質も向上している
- 高齢者や障がい者など利用者の意向を十分に尊重した良質かつ適切な介護・福祉サービスが充実している
- 各種感染症に迅速かつ的確に対応できる体制が整っている

暮らし

- 安全・安心で、差別や虐待のない人権に配慮した社会づくりが進んでいる

しごと



飢餓をゼロに

- 産地の生産力が向上し、生活に不可欠な食料を安定的に供給している



エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- 再生可能エネルギー関連産業の育成・集積が進み、一大産業集積地となっている
- 水素エネルギーの社会実証が進み、国内外の最先端モデルとなっている



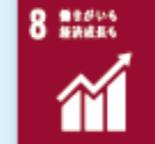
海の豊かさを守ろう

- 水産資源を安定的に利用できる仕組みが確立され、活力ある水産業が営まれている



パートナーシップで目標を達成しよう

- 住民、企業、NPO法人や行政が連携し、住民主導のまちづくりが行われている
- 市町村とともに、効率的・効果的な行政サービスが行われている



働きがいも経済成長も

- 本県経済の中枢を担う県内の中小企業などが主役となった力強い地域産業が成長・発展している
- 福島イノベーション・ココスト構想の進展などにより地域外からの人材が週流・定着している
- 農林漁業者が他産業並の所得を安定的に確保している
- 県内観光地の魅力が高まり、インバウンドを含めた観光や教育旅行など地域を訪れる交流人口等が増加している
- 若者、女性、高齢者など誰もが安心して働ける雇用環境が整備されている



気候変動に具体的な対策を

- 災害に強いライフラインやインフラの整備が進んでいる
- 防災に関する意識が高まり、自助・共助・公助による災害の備えが進んでいる
- 地球温暖化対策に県民一人一人が積極的に取り組んでいる



安全な水とトイレを世界中に

- 猪苗代湖を始めとする水環境が保全されている



産業と技術革新の基盤をつくろう

- 県産品・観光の魅力や正確な情報の発信により産地評価の回復、競争力の強化が進んでいる
- 福島イノベーション・ココスト構想が進展し、地域企業の活力向上と新産業の集積・育成が進んでいる
- 利便性が高い道路ネットワークが確保されるとともに、条件不利地域でも携帯電話等が利用できる
- 福島空港、相馬港や小名浜港は、物流拠点・交流拠点として地域経済の活性化に寄与している



つくる責任つかう責任

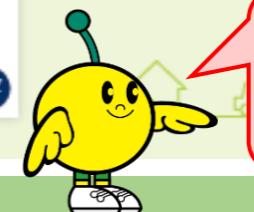
- GAP等認証の活用などにより、持続可能な農業生産が進み、県産農産物の信頼性が確保されている
- ごみの減量化やリサイクルなど環境に配慮したライフスタイルが定着している



複合災害からの福島の復興

- 県民の皆様や福島県に思いを寄せてくださる多くの皆様と連携し、複合災害からの復興を成し遂げている

福島県ではSDGsの18番目のオリジナルの目標を設定しています。(2022年6月設定)



(3) 計画の推進に向けて

計画を着実に推進するため、PDCAマネジメントサイクルの確実な実行による事業効果の適切な評価を行い、具体的な成果の創出と見える化を進めています。

その際、**根拠に基づく政策立案（EBPM）**の考え方を重視するとともに、指標の達成状況の分析や、適時・適切な指標への更新なども含め、本県が保有する統計情報など様々なデータを積極的に活用しながら、実効性の高い事業の企画立案につなげます。

また、機動的かつ効果的な第三者評価を実施するため、**福島県総合計画審議会**において、施策の点検・評価を行うほか、県内各地域で、**県民との意見交換の場**を設定することなどにより、地域の声を計画の進行管理に活用しています。



県内7方部で開催する
地域懇談会（毎年6月頃）



総合計画審議会での
第三者評価（毎年8月頃）



総合計画審議会長から
知事に進行管理に関する
意見書の手交（毎年9月頃）

- 本県を取り巻く「最新の現状・課題」、「福島ならではの取組や魅力」などを県民の皆さんや福島に思いを寄せてくださる皆さんと共有し、共に県づくりを進めていくために本報告書を初めて作成しました。
- 本報告書をご覧いただき「ふくしまにはこんなすごいものがあったんだ」と再認識いただききっかけとなれば幸いです。
- そして、これからも、共に県づくりを進めていただくパートナーとして、ご理解とご支援をよろしくお願ひいたします。
- 本報告書に記載できなかった内容が、総合計画（本編）にはたくさん盛り込まれています。ぜひ一度、総合計画をご覧いただき、県民の皆様と一緒に考えて作り上げた2030年の将来の姿や施策の方向性をご確認ください。

また、職員による総合計画の出前講座も開催していますので、ご興味がありましたら以下の二次元コードからお申込みください。

総合計画の特設ページ



出前講座のお申込みサイト



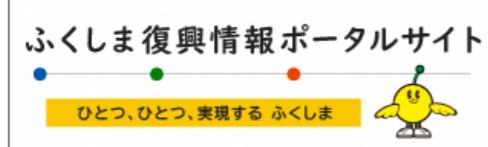
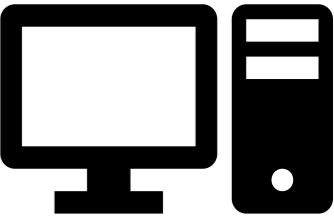
職員による出前講座

【年次報告書の対象期間】2024年度（2024年4月～2025年3月）の指標の実績や、2025年度に実施した取組などを対象としています。

【報告書の発行時期】 2026年3月

各種ポータルサイト

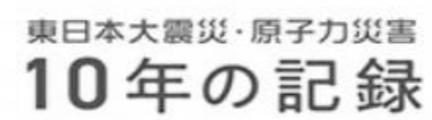
福島県の魅力や最新情報を各種ポータルサイトで発信していますので、ぜひご覧ください！



ふくしま復興情報ポータルサイト
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/>

(説明)

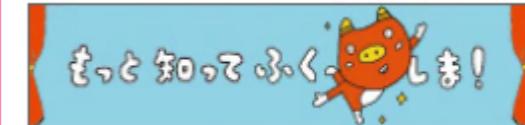
あああ



東日本大震災・原子力災害 10年の記録
<https://fukushima-10years-archives.jp/>

(説明)

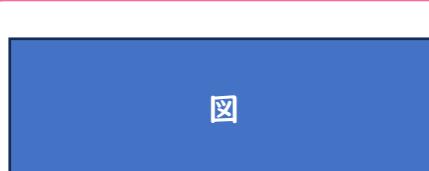
あああ



「もっと知って ふくしま！」
<https://mottoshitte.jp/>

(説明)

あああ



復興・再生のあゆみ（復興関連冊子）
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/ps-fukkoukeikakull151.html>

(説明)

あああ



「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」
<https://jitsugensuru-fukushima.jp/>

(説明)

あああ



FUKUSHIMA NOW
~ふくしまの今を知る動画スペシャルサイト~
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/movie-now/>

(説明)

あああ



《発行》

福島県 企画調整部 復興・総合計画課
Fukushima Prefectural Government

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号
TEL 024-521-7109
MAIL sougoukeikaku@pref.Fukushima.lg.jp